

第1回富山県総合計画審議会

日 時：平成28年12月8日（木）14:00～16:00

場 所：ANAクラウンプラザホテル富山

3階 鳳の間

1 開会

【司会】 それでは、大変お待たせいたしました。

ただいまから、富山県総合計画審議会を開催いたします。

2 知事挨拶

【司会】 まず初めに、石井知事からご挨拶申し上げます。

【石井知事】 どうも皆さん、こんにちは。

本日、第1回目の富山県総合計画審議会を開催しましたところ、委員の皆様方には、お忙しいところ、委員就任を快くお受けいただいた上に、またご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

また、数土顧問には、本当にご多忙の中、遠路、東京からおいでいただき、ありがたく思います。

さて、ご承知のとおり、平成24年の4月に、県政運営の指針となります「新・元気とやま創造計画」、新しい総合計画をその時点で策定しまして、活力・未来・安心を基本政策、また全体を通して人づくりを重要政策として施策の推進に邁進してまいりました。

当初思っていた以上に割に成果が出たかなと思っておりますのは、例えば8、9年前は富山県の医薬品生産額は2,300億円ぐらいで全国で8番でしたが、統計は2年遅れですけれども、一昨年、約6,200億円になりまして、この8年ぐらいで2.3倍、また、大阪府を追い抜いて全国で2番目ということになってきました。

また、新幹線開業効果もきっと大きいただろうとは思っておりましたが、開業1年の時点ですと、民間調査によりますと、開業前と比べて県内の宿泊者数が25.4%増で、伸び率では全国で1番ということにもなりました。

また、G7の環境大臣会合、こうした会議が富山県で開催できるというのは、潜在的願望としてはあったんですが、なかなか難しいかなと思っておりましたが、この5月に開催できて、かつ大変つつがなく運営できて、成果も相当出たんじゃないかと思います。

また、県の財政も、400億の赤字をこの春ゼロにすることができました。

こういった面で、計画どおりというか、ものによっては計画を上回って成果も出ていると思いますけれども、同時にまだまだ課題も多いと思っております。

新幹線が開業しまして1年9カ月たちまして、新幹線開業の勢いをさらに持続させて、一時的なものに終わらせないで新たな富山県の飛躍、発展にいかにつなげていくか。また、数年来政府にお願いして、地方創生戦略ということを中心政治の重要テーマの一つにしていただくことができましたが、この新幹線開業効果と地方創生戦略をうまくかみ合わせて、最大限に活かして富山の新たな未来を切り開いていかなきゃならないと思っております。

既に昨年10月、それからその後、この3月に、政府の地方創生戦略を受けたとやまの未来創生5カ年の計画は、策定してスタートをして実施も進んでおります。

また一方で、ここにいらっしゃる多くの方のお力添えをいただいて、今後20年、30年先を見通した富山県経済・文化長期ビジョンというのもこの9月に策定しまして、これもスタートしておりますが、このあたりで、県政全般にわたる総合計画、策定から4年半たちましたので、県民の皆様の代表、有識者の皆様方にお忙しい中ご参加いただいて、ぜひ今の総合計画の見直しをやりたい。これまでも大体5年ごとに、10年計画ですけれども、ローリングシステムで見直してきましたので、ぜひそうさせていただきたいと思ってこの審議会を開かせていただきました。

また、ご案内のとおり、たくさんの皆様のご支援を賜って、この10月の選挙で4期目に入らせていただきましたが、その際に、今までの総合計画の活力・未来・安心と人づくりを骨子にしながら100の政策を発表しまして、これについて県民の皆様の真意を問うという形にさせていただきましたので、いずれにしても、この100の政策は、ぜひ新たな政策、総合計画にも盛り込みたいなと思っておりますが、皆様からいろんなご意見、ご提言もいただいて、幅広い、かつ戦略性のある総合計画に策定できたらなと思っております。

今後、この審議会を取りまとめていただく骨子案とか答申の素案については、県民の皆様に、パブリックコメントあるいはタウンミーティング等々で、もちろん、そのプロセスの中で市町村やいろんな方のご意見も伺うつもりですけれども、進めて、県民総参加で新たな計画をつくる。そして、官民、県、市町村、民間の皆様と力を合わせて、この10年、

また富山県の新しい飛躍を図ろうと。そのための計画にしたいと、こんなふうに思っております。

ぜひ皆様のいろんなご意見、ご見識をご開陳賜りまして、先見性のある、実効性のある総合計画となりますように、ひとつよろしくお願いを申し上げます。

以上でご挨拶といたします。ありがとうございました。

【司会】 それでは、会議に先立ちまして、お手元にお配りしております資料1の委員名簿をごらんいただきたいと思っております。

時間の関係もございまして、お一人ずつのご紹介は省略させていただきたいと思っておりますが、お手元の資料1の名簿と座席表をごらんいただくということでご了承いただきたいというふうに思っております。

また、委員の皆様には、お手元に委嘱状をお配りさせていただいておりますので、よろしくお願いたします。

なお、本日の出席状況であります、委員49名のうち41名の方が出席、また顧問の数士様にご出席いただいております。

また、県側の出席者につきましては、石井知事のほか、副知事など関係部局長等、出席いたしております。

3 議事

(1) 組織運営事項

- ・ 会長互選 ・ 会長職務代理者指名
- ・ 富山県総合計画審議会運営規程の改正 ・ 所属部会の決定 ほか

【司会】 それでは、議事に入らせていただきますが、まず初めに会長の互選についてお諮りをいたします。

資料2で配付しております総合計画審議会条例をごらんいただきたいと思っております。

本日は、新しい委員の方々による初めての会合でありますので、まず条例6条1項の規定によりまして、委員の皆様で会長を互選いただく必要があります。

それでは、会長の互選をお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

よろしくお願いたします。

【遠藤委員】 富山大学の遠藤でございますが、私、永原委員に会長をお願いしたいとい

うことで、いかがでございましょうか。

【司会】 ありがとうございます。

ただいま永原委員にとのご発言がありましたけれども、いかがでしょうか。

(拍手)

【司会】 ありがとうございます。

それでは、ご異議ないということでございますので、永原委員に会長をお願いしたいと存じます。

永原会長は、会長席のほうへご移動、よろしくをお願いいたします。

それでは、まず永原会長から一言ご挨拶をいただき、引き続いて議事を進めていただきたいと思います。

会長、よろしくをお願いいたします。

【永原会長】 ただいま皆様からの推薦を受けて会長を仰せつかった永原でございます。よろしく申し上げます。

今ほど石井知事からもお話がありましたように、この審議会が担う役割は大変重いものだというふうに思っております。

県民の皆様の期待も大きいだろうというふうに推測しておりますが、どうか委員の皆様のご協力を得て会長職を全うしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

知事の話にもございましたように、昨年の北陸新幹線開業という新しい時代を迎えまして、初めて策定する総合計画であります。

策定に当たりましては、今回の知事選挙において石井知事が言われました、9月議会が終わって選挙の公示前の、100の政策を打ち出すというようなことで、いろいろ日ごろ考えておられる政策を公表されましたので、ある意味ベースになってくるのかなというふうに思うのですが、富山県の新たな飛躍、発展を目指して、国内外の社会状況の変化、あるいは県政の重要課題にも的確に対応して、大局的観点から県政の方向をご審議いただきまして、富山の新時代にふさわしい長期ビジョンになりますように、そういうものをつくるのが私どもの使命かなというふうに思っております。

どうか委員の皆様には、大変お忙しいと思いますが、県民の期待に応えるべく、それぞれのすぐれた知見と専門的な見地から、県政の目指すべき姿や方向性についてご議論いただき、また、それを実現していくための具体的な施策につきましても、踏み込んだ建設的なご意見をご主張いただきたいと思います。

そして、活力と魅力あふれる富山県の創造に向けまして、先見性と実効性のある総合計画を取りまとめていきたいというふうに思っております。

委員の皆様のご尽力、ご協力を切にお願い申し上げます。

それでは、議事を進めてまいります。

委員の皆様には、会議の進行によりしくご協力をお願いします。

まず、会長の職務代理者でございますけれども、審議会の条例の第6条によりまして、会長が指名することになっておりますので、私から指名させていただきます。

会長職務代理者には、遠藤俊郎委員をお願いしたいと存じます。よろしく申し上げます。

次に、この審議会の組織及び運営方法について定めております富山県総合計画審議会運営規程の改正等についてお諮りをいたします。

これにつきましては、改正点等につきまして事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それではご説明させていただきます。

お手元の資料で、下にページ番号を振っておりますけれども、まず8ページの資料5をごらんいただきたいと思っております。

審議会運営規程で今回改正をさせていただきたい点といたしまして、大きく3点ございまして、1つ目は、左端の総合部会の所掌事務の4に下線を引いておりますけれども、「人づくり、地域別の特性と取組みに関すること」を追加させていただいております。

現行計画にも記載されておりますが、改めて、人づくりについてはライフステージに応じた人づくり政策について議論いただきたいという趣旨でございます。

また、地域別の特性と取組みにつきましても、この後ご説明いたしますが、県内3ブロックの取組みの取りまとめについて、総合部会の議論のテーマに据えていただきたいという趣旨でございます。

2つ目は、未来部会の所掌事務でございますが、1に「少子化対策」を追加しております。2につきましては、これはもともと1に教育に関することを規定しておりましたけれども、今回、「学校教育、家庭・地域の教育力に関すること」を新たに1から独立して項目立てをしております。

あと、スポーツについては、これまで健康づくりの観点で安心部会の所掌にしておりましたけれども、体力づくりという点では引き続き安心部会で議論いただくんですが、新たに未来部会では、スポーツを通じた地域の活性化ですとかスポーツに親しむ環境づくりということで、幅広の議論をいただきたいという趣旨でございます。

また、オリンピックもありますので、アスリートの育成ですとか競技力向上などに着目した議論もいただきたいと考えております。

また、県民活動の推進につきましては、従来3として独立しておりましたが、スポーツの後に追加をさせていただいております。

続いて3点目が、図の下になりますけれども、総合部会のもとに、若者世代（20名程度）による青年委員会と、県内3つのブロックに、各市町村長さん、地域の有識者の方々30名程度をメンバーといたします地域委員会を新たに設置させていただくというものでございます。

以上の内容につきまして、恐れ入りますが、3ページ、資料3をごらんいただきまして、こちらが運営規程の改正案でございます。

まずは、後段の第5条の「部会に委員会を置くことができる」という規定に基づきまして、6条、7条を部会の規定、2条から4条に倣いまして追加をしております。

続いて、1枚おめくりをいただきまして、5ページをごらんいただきたいと思いますが、別表1の部会の所掌事務についての改正、6ページでは別表2と別表4を追加しております。

続いて7ページ、資料4でございますけれども、委員会設置の趣旨、また地域委員会の県内市町村の割り振りを記載させていただいております。

運営規程の改正については以上でございます。

【永原会長】 富山県総合計画審議会運営規程の改正、委員会の設置等について、事務局の説明どおりでよろしいでしょうか。

（異議なし）

【永原会長】 ありがとうございます。

では、事務局から説明のあったとおり改正いたします。

続きまして、審議会運営規程第2条第3項の規定により、委員の方々には各部会に所属していただくことになっておりますので、委員の方々の所属部会の指名を行いたいと存じます。

委員の方々の所属部会につきましては、資料6の部会別委員名簿に記載されておりますとおり指名いたしたいと存じます。どうぞご了承賜りたいと思います。

次に、これも審議会運営規程第3条の規定によりまして、各部会の部会長、副部会長を指名させていただきます。

総合部会の部会長には、遠藤委員にお願いします。それから、副部会長には稲垣委員にお願いいたしたいと存じます。活力部会につきましては、部会長に高木委員、副部会長に川村委員にお願いしたいと存じます。未来部会につきましては、部会長に金岡委員、副部会長には神川委員をお願いしたいと存じます。安心部会につきましては、部会長に岩城委員、副部会長には尾畑委員をお願いしたいと思います。

それでは、今ほど指名させていただきました各部会長、副部会長の皆様には、よろしくお願いいたします。

なお、総合部会での審議に当たりましては、活力部会、未来部会、安心部会の各部会長の出席が難しい場合には、副部会長に代わっていただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

また、部会に属する専門委員の指名、青年委員会、地域委員会に属する審議会委員及び専門委員の指名並びに委員長及び副委員長の指名は、会長にご一任いただければと存じます。

以上でございますので、審議会の組織運営に関する議事は終了です。

【司会】 ありがとうございます。

（２）計画策定の諮問

【司会】 それでは次に、知事から永原会長に対し、総合計画の策定を諮問したいと思います。

知事は永原会長の席の後ろのマイクまでお進みください。

なお、諮問文は皆様方の資料7をごらんいただきたいと思います。

【石井知事】 それでは、総合計画の策定についての諮問ということでお渡しします。

諮問の趣旨は、先ほどご挨拶で申し上げたとおりでありますので、よろしく申し上げます。

【永原会長】 今、頂戴した諮問では、富山県を取り巻く環境が大きく変化する中、中長期的な視点に立って、県づくりの目指すべき方向を明らかにするため、平成38年度を目標年次とする総合計画の策定を諮問しますという内容になっております。

今ほど諮問を受けましたので、これから新しい総合計画の審議を進めてまいります。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 現行の総合計画の進捗状況と課題について

(4) 総合計画の見直しについて

【永原会長】 では、事務局から、議題3、現行の総合計画の進捗状況と課題及び議題4、総合計画の見直しについて資料が配付されておりますので、これを一括してまとめて説明をお願いします。

【事務局】 それでは、資料8からでございますが、現行の総合計画の進捗状況と課題について、お手元の18ページをごらんいただきたいと思います。

まず、現行の計画の概要についてでございますが、(1)策定年次につきましては、平成24年度、目標年次は平成33年度となっております。

(3)の基本理念のもとにおきまして、(4)でございますが、「人材」「環日本海・アジア新時代」「ふるさと」を重要視点、キーワードといたしまして、活力・未来・安心の3つの目指すべき将来像をごらんのとおりに設定しております。

(6)でございますが、基本計画では、特に優先的に取り組む重点戦略といたしまして、ごらんの5つの戦略を策定しております。

続きまして、19ページでございますが、活力・未来・安心の60の政策と、これらを支える重要政策、人づくりを右側の20ページのとおり設定しております。

また、次の○でございますが、先ほどの総合部会、地域委員会で議論いただく内容でございますけれども、県内各地域の課題や特性に応じた取組みについて取りまとめを行っております。

また、計画本体とあわせてアクションプランを毎年度策定いたしまして、(7)でございますが、PDCAサイクルによりまして、目標達成の検証を繰り返し継続して行ってきました。

続きまして、22ページから27ページにかけては、資料といたしまして、世界、日本の人口、国際経済などの富山県を取り巻く環境の現状を取りまとめた資料をつけさせていただいております。

また、28ページ以降は、60の政策ごとに、現状と課題、それから主な県民参考指標の進捗状況を取りまとめております。

活力につきましては、28ページから48ページまで、21の政策について取りまとめており

ます。

未来につきましては、50ページから68ページまで、19の政策について取りまとめております。

安心につきましては、70ページから89ページまで、こちらは20の政策について取りまとめております。

続いて、人づくりににつきまして、90ページから93ページまでそれぞれ取りまとめております。

個別の説明は割愛させていただきますが、各部会での議論の参考にさせていただければと思っております。

続きまして、94ページでございますが、A3横長の資料でございます。

こちらは、PDCAサイクルに基づきます27年度末時点の各政策の進捗状況をまとめた資料でございます。

下の1の表は60の政策目標の進捗状況についてでございますけれども、左から、「概ね順調」が11.7%、真ん中の「概ね順調だがより一層の施策の推進が必要」が全体の85%となっておりまして、政策ごとの内訳は右のページのとおりとなっております。

2の表でございますが、これは189の県民参考指標の平成33年度での達成見通しの状況についてでございますが、既に達成したものと達成可能を合わせまして約70%という状況となっております。

次のページは、その政策別の内訳を添付させていただいております。

続きまして、資料9、96ページをごらんいただきたいと思います。

1の見直しの必要性、背景につきましては、今ほどの諮問文に記載があります内容のとおりでございます。

2の新たな計画についてでございますけれども、平成29年度中に新たな計画を策定いたしまして、おおむね10年間、現行計画の目標年次の33年度をローリングシステムで5年延長いたしまして、平成38年度を目標年次とする計画といたしたいと思っております。

それから、(2)の計画の体系でございますが、先般の知事選挙において石井知事が掲げました政策集、お手元にもお配りしておりますけれども、100の政策をベースといたしまして、現行計画と同様、3つの基本政策、これらを支える人づくりを重要政策として体系化いたします。

また、先ほどご説明しました5つの重点戦略にかわる新たな分野横断的な戦略も同じく

盛り込んでいきたいと考えております。

続きまして、97ページをごらんいただきたいと思います。

スケジュールにつきましては、こちらにあるとおりでございますけれども、審議会につきましては、今回を含めまして3回、同様に部会につきましても3回開催したいと思っております。皆様方には来年末まで都合6回の会議へのご出席についてよろしくお願いいたします。

また、並行いたしまして、(2)の囲みにありますとおり、ごらんの広報公聴活動を行いまして、県民の皆様のご意見も計画に反映してまいりたいと思っております。

98ページは、現在の計画策定時以降の主な動きを参考にまとめております。

99ページにつきましては、今ほどご説明しましたスケジュールの詳細の案につきまして添付させていただいておりますので、またご確認をいただければと思っております。

続きまして、資料10、A3横長の100ページでございます。総合計画策定後でございますけれども、まず左側の表でございますが、昨年10月に、地方創生、人口減少対策などの施策を盛り込んだ当面5年間の計画ということで、とやま未来創生戦略を策定しております。真ん中の総合計画の政策に向けて、特に矢印が向いている政策について特に強化をしております。

また、右側には、本年9月に富山県経済・文化長期ビジョンを策定しております。こちらは富山県の長期的展望に立って、計画、文化、人づくりをテーマに議論いただきました。

こちらも、総合計画の体系を基本に、30の新たな政策の構想を取りまとめておりますので、これら2つの計画も生かしながら新しい総合計画に反映してまいりたいと考えております。

続いて、資料11、101ページから104ページまでは、これからの総合計画の策定に向けた主な取組みの方向性について、それぞれ各分野ごとに項目をまとめておりますので、今後の部会での議論の手がかりとして参考にさせていただければと思っております。

次の資料12、105ページでございますが、現行の総合計画と政策集との関係について取りまとめた資料でございます。

特に赤色の矢印については、現行の計画の政策を拡充するものでございまして、先ほどの主な取組みの方向性の基本となっているものでございます。

この政策集のフレームをベースとしまして、今後、皆様からのご意見を具体的施策とし

て盛り込ませていただくということで計画に反映してまいりたいと考えております。

続きまして、107ページでございます。資料13でございますけれども、あらかじめ皆様方に事前にアンケートをとらせていただいた結果の速報を取り急ぎ取りまとめた資料でございます。

まず問1につきましては、10年後の県民生活がどのようになっているのかのお考えをお尋ねいたしましたところ、北陸新幹線などにより県内経済が活発になるというお答え、これは「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」とご回答いただいた方が77.5%で、前回調査が括弧内でございますが、7位から1位になっております。

それから、108ページでございますが、こちらは富山の魅力形成のために特にどのようなことが重要かについての問いでございますけれども、子どもの教育という回答が前回4位から1位になっております。

それから、109ページの県土づくり施策としてどのような成果を今後重視して整備を進めるべきかの問いに対しましては、人口減少などに対応した社会資本整備が前回3位から1位となっております。

110ページから113ページまでは、各分野ごとに重点的に進める政策についてそれぞれご回答をいただいております。

114、115ページは、それぞれの各政策ごとに重要であるにご回答いただいた上位2位までの回答結果を掲載させていただいております。

また、116ページから119ページまでは、それぞれ自由意見をご回答いただいておりますので、それぞれ政策ごとに掲載をさせていただいております。ご協力ありがとうございました。今後、計画立案の参考とさせていただきたいと思っております。

それから120ページでございますけれども、今回ご欠席の稲垣委員から意見提出をいただいております。

簡単にご紹介いたしますと、稲垣委員からは、産業基盤の維持拡大のための対応についてのご提案、それから農林水産業が今後大事だということでの振興策の内容、また県内における人口の偏在についての対応、こういったものについてご意見をいただいております。

最後に145ページ、資料14でございますが、今後の各部会の開催日程について添付しておりますので、お目通しの上、ご確認をお願いしたいと思います。

事務局からは以上でございます。

(5) 意見交換

【永原会長】 それでは、これから委員の皆様からご意見をいただきたいと存じます。

まず初めに、顧問をお引き受けいただいております、きょうは東京からお越しをいただいております数土さんをご出席でございますので、ご意見を頂戴したいと思います。よろしく申し上げます。

【数土顧問】 永原会長に指名していただきまして、光栄でございます。

今審議会の顧問の委嘱を石井知事から受けまして、私、富山出身でございまして、常日ごろから石井知事の県政に大変感心しながら応援していたわけでして、喜んで委嘱に応じることにいたしました。

本日、総合計画の進捗状況あるいは総合計画の見直しを聞きまして、私、非常に感心しております。まず知事は、100の政策を県民に問うて就任されまして、この100の政策をベースにしておられますけれども、人材教育、人材の育成、人材を充実するということを非常に掲げておられまして、これは本当に素晴らしいなと思っております。

私、最近、ちょっと思うところがありまして、これは私自身の反省でもあるわけですが、1991、1992年ぐらいまでは、日本は1人当たりの勤労者、労働者の生産性が1位、2位だったわけですが、現在27位で、もっと具体的に、ドイツと比較してみますと、ドイツ人の年間の労働時間は1,500時間、日本は2,000時間、いろいろあるんですけど、そういうことを無視して1人当たり日本人の生産性を1.00としたらドイツは1.50ぐらいになると。これは大変な、25、26年の間に引っ繰り返ってしまったわけですが、これは私、どうも日本人が教育というものを、ドイツとか追い越されたところに比べて努力してこなかった結果じゃないかと。これは非常に冷徹に、冷厳に見る必要があると。

その中で何かと云ったら、私は実は外国人と話ししてございまして、それはIT、システムじゃないかと。我々は今、パソコンを持っているんですけども、欧米人はパソコンを自分の助手か秘書みたいに使っておりまして、生産性を上げるためにIT、システムを非常に使っていると。ところが、我々はパソコンをメールを見るぐらいしか使っていない。これは私の会社ですよ。皆さんじゃなくて。そういうことを非常に痛感しておりまして、ITの使い方、生産性を上げるための道具として、もう少しやっぱり教育もし、我々自身が勉強する必要があるんじゃないかなと最近思っております。

だけど、そういうことも非常にわかっておられて、このデータを見ますと、世界を相手

に、世界、世界ということがこのデータに非常に出てきておりますので、私はやっぱり世界を見てデータを集めて、そのデータの中からヒントを得て生産性を高めようとしておられる姿勢がひしひしと今日伝わってまいりました。

これからも一生懸命、これだけ富山県のほとんど、名実ともにビップの方が49人もおられるわけで、立派な成果を上げていかれると思っております。私自身も何かありましたら、またコメントさせていただく機会を見つけていこうと、こう思っております。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは、これから委員の皆様にご意見をお伺いしたいと存じます。

限られた時間でありますけれども、なるべく多くの方にご発言をお願いしたいと思っております。できればお一人2、3分をお願いできればというふうに思っておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

それでは、ご意見のある方は挙手をお願いします。

ないようでしたら、私のほうから順次ご指名しますので、よろしく申し上げます。

では、最初に、部会長をお願いしました総合部会の遠藤さん、お願いします。

【遠藤委員】 この段階で、新しい知事の100の項目、政策を含めて、総合計画がどこまで進んでいるかを一回見直して、改めてこの先を考えることは非常に重要なタイミングだと思います。総合部会の部会長ということをご指名いただきました責任を感じますし、見ていきたいと思っております。

私は、基本的日本に問われているのは人の力で、人の数と質が重要だと思います。

今の富山県は、地方では恵まれた環境にあるとは思っておりますけど、改めて全体を見直して、人が元気で幸せに生きられる環境、自らの足元を見つめ、直しながら先を考えるということが大事だと思います。皆様とともに将来を考えてみたいと思っております。

【永原会長】 ありがとうございます。

では次に、活力部会の副部会長の川村さん、いかがですか。

【川村委員】 この総合計画という中で、やはり環境が変わったりするということできくと、当初から現状と方向性とか何かも変わってくるということがあると思っております。そういう面では、この時期にそういう見直しということに入って、そして新たな方向性をしっかりとやっていく、つくっていくということは非常にいいことなのかなと、こういうふうに思っております。

先ほどの説明にもあったんですが、アンケートから見ても、約5年前のときと新幹線が

通って1年半たった今と、背景といいますか風景といいますか景色が変わってきていると、こういうことでもあります。

これが現実なので、当時のつくった策定から見て乖離してきているもの、ないしはそれに沿っているものとかそういうものをしっかりと、これでも分析はされているんですが、落とし込んで、分析して、対応策をつくって方向性をつくっていくということが大事なのかなと、こういうふうに思います。

何をやるにしても、将来にわたって人づくりであります。と同時に、もう1つ、働き方改革といいますか、やっぱりこのところを重点的なものにしていくということが必要なのかなと、こういうふうに思います。特に地方、中小企業はなかなかできない。そういう面では、連携をとりながら、しっかりと働き方改革、これが人材育成とかそういうものにもつながっていくのかなというような思いでありますので、皆さんと一緒に意見交換しながら、そういう方向性とか何かをやっていききたいなと、こういうふうに思っています。

以上です。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは次に、未来部会長の金岡さん、お願いいたします。

【金岡委員】 未来部会長をご指名いただきました富山県経営者協会の金岡克己と申します。よろしくお願い申し上げます。

経済人が未来部会の部会長でいいのかという思いもございますが、委員の皆様のご意見を伺いながら進めてまいりたいと。

私もこのすばらしい富山県に生まれ育ちまして、何とか郷土にお返ししたいという思いも強く持っておりますので、先ほど数土顧問からITのお話ございましたので、私、IT業界におりますので、一言だけ申し上げますと、北陸新幹線の敦賀以西のルートがどうも小浜・京都に決まりそうな雰囲気がございます。

どうしてこうなのかなとふと考えてみますと、やはり具体的な試算が出てきた。3つのルート、何分で到着するのか、乗りかえはどうなるのか、さらには総便益がどうか、そしてまた費用対効果がどうかと。こういう具体的な数字が出てきたところで、やはり小浜・京都ルートが最も合理的だろうという結論が出たのではないかなというふうに感じております。

ということは、先ほどITの活用のお話もいただきましたけれども、やはり正しいデータに基づいて議論すれば、おのずとある方向に収束していけると。幸い、4年前にす

ばらしい総合計画を富山県のほうでおつくりいただいて、そのフォローのための資料もたくさんございますので、そういう具体的なデータに基づいて議論を重ねてまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは、神川さん、いかがでしょうか。

【神川委員】 未来部会の副部会長にご指名いただきました富山大学の神川でございます。

今回、見直しをして、これから10年先、平成38年を見据えてということで考えていきたいと思っております。今回調査をしていただいたのは中間報告かとは思いますが、改めて富山の魅力形成のためにということで、108ページにあります、どのようなことが重要かという最初のところの1番に、恵まれた教育環境のもとで、子どもが伸び伸びと育つことが示されています。そして、「個性が生かされていく」というようなことがどんどん上位に上がってきているということは、教育に関わる者として非常に緊張感を今感じております。10年先よりもっと先を見るべきと。これから生まれてくる子どもが年をとっていき、50年、100年先を見据えて、やはり今しっかりと土台を築いておかなければならないこと、種をまいておかなければならないことが何なのかということ、改めて襟を正して考えていかなければいけないのかなと思っております。

今回、105ページのところで100の政策が、部会ごとに、内容が移動したり、強調されたり、まとめられたりしているものを改めて拝見しますと、やはりどの政策も結果的には連動してくることが分かります。前回から見て、こちらの「未来部会」のほうに行ったり「活力部会」のほうに行ったりしていることから、どの部会も連動しているということで、自分の担当する未来部会だけではなくて、他の部会の状況もしっかりと把握しながら結果を出せていけたらいいなと思っております。

1つだけちょっと気になっているのが、やはり富山県、いいところがたくさんあるんですけども、課題として重く受けとめなければならぬこともしっかりと目をそらさずに見ていかなければいけないと思います。きのうの新聞で、夫の子育てが47都道府県の中で最下位だったという記事を見たときに、やはり男女ともに協力をする意識改革ということも、子育てをしたり、少子化対策をしたり、教育を考えたりしていくときに改めて重要なのではないかなと思いました。原点から見直すべきところも、そして今の子どもたちから手をかけて育てていかなければならない部分も多々あるなということ、改めて感じている次第です。また皆様のお教えをいただきながら精いっぱい考えていきたいと思っておりますので、

どうぞよろしくお願いいたします。

【永原会長】 ありがとうございます。安心部会長の岩城さん、お願いできますか。

【岩城委員】 社会福祉協議会の岩城でございます。安心部会の会長ということで、大変な役を仰せつかったと思っております。

私が考えていることは、やはり少子高齢化で、かつ人口減少がこれから見られるこの社会におきまして、県民の全てが住みなれた地域で安心して暮らせるようになるためには、医療、福祉、介護というものの連携が非常に必要になってくるかと思っております。

この件に関しまして、どのような対策ができるのか、この委員会におきましてぜひ検討して考えてみたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【永原会長】 では、安心部会の副部会長の尾畑さん、いかがですか。

【尾畑委員】 安心部会の副部会長で、消費者協会を代表してまいりました尾畑でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

消費者代表という立場で申し上げますと、前回の政策方針や石井知事の政策の中には、消費生活に関することが入っているんですけども、今度の新しい骨子を見ると、安全・安心の中にまだ入っていないところがございます。この点はこの後の議論の過程で、どういう形で入れていくか、もう少し検討できたらいいなというふうに思っています。

医療とか福祉も大切ですが、最近、高齢者の特殊詐欺の多発のようなこともありますので、できれば消費者とか消費生活というキーワードをどこかに盛り込みながら、次の安全・安心のステップを考えていけるよう提案していきたいと、考えておりますので、どうぞいろいろご協力、ご指導をお願いしたいと思えます。

以上でございます。

【永原会長】 ありがとうございます。

次に、北日本新聞の板倉さん、いかがでしょうか。

【板倉委員】 皆さんも同様だと思うんですけども、すごいボリュームの内容で圧倒されておりますけれども、ただ、何といたしまして、富山に生まれて、富山で育って、結婚して、子育てして、富山で亡くなってという、それでよかったなど。全ては思えないんですけども、一人でも多くの方がそういうふうに思えるような富山であれば、富山をつくれればいいかと常々思っております。そういう面でご協力ができれば大変幸せなことだと思っております。

それから、数土顧問、その他ほかの方々もおっしゃいました。やっぱり人づくりという

のはそういう意味でも大事だと思うんですけども、それぞれの部分で高い志を持って輝く人たちが、これもまた一人でも多くいれば、それこそ活力のあるふるさとができるのではないかと考えております。

以上であります。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは、お隣の庵さん、お願いします。

【庵委員】 前回つくられた総合計画が、非常に精緻かつ広範囲な施策であったということで、この進捗結果を見ると、相当の、係数だけ見ても進捗したというのを読んできて、その網羅性であるとか、また一つ一つの実効性という点では結構効果があったというふうに私自身は見てきょうまいりました。

ただ、幾つかやはり難しい問題といたしますか、事業継続性といたしますか、長続きするような仕組みをつくらないと、なかなか当初掲げた課題をクリアできないような問題、例えば林業であるとか、そういうような部分というのは、やはり何か仕組みを考えないと、なかなか克服というのは極めて難しい問題もあるなというふうに私は感じた次第です。

今回、4年半経ていろいろと変化があった事項について、さらに100の政策提言といったものと連携させて、少しリバイスしようということですので、先ほど言った、幾分やはり難しい課題とそうした新しい視点を持って、もう一度何か提言できたらという思いであります。

【永原会長】 町村会の金森さん、いかがですか。

【金森委員】 町村会の金森でございます。

今日いろいろと説明をいただいたわけでありますが、まずもって、組織の中に地域委員会というのを今度新たに設けられたということございまして、これはやはり、施策の実施に当たっては、県と連携をしていくということが大切であると。

そういった中で、それぞれの首長さんが意見交換されて、それが総合計画に盛り込まれたということになれば、当然、我々も責任があるわけでございますので、そういった気持ちで一つの総合計画にフィットして意見を発していきたいと思っておるわけでありまして。

また、各市町村におきましては、昨年の10月に国の地方創生政策の中で、それぞれの自治体が人口ビジョン、そしてまた地方版の総合戦略というのを策定しております。そうなりますとやはり、人口減少時代にどのように自治体に取り組んでいくかというビジョンも踏まえておるわけでありまして、そういう中でも具体的な意見を出し合って、そして、先

ほど言いましたように、県と市町村が連携のもとに、素晴らしい魅力ある県土づくりをしていくということに、そういった意見交換ができればということで期待をしておるわけにありますし、私もその一員であると思っておりますので、そういったことを発言してまいりたいと、このように思っております。

以上であります。

【永原会長】 ありがとうございます。中井さん、お願いします。

【中井委員】 薬業連合会の中井でございます。

この計画といいますか総合計画はもうみんな網羅されていまして、もうパーフェクトではないかというふうに思いますが、いろんなことが書いてありますが、基本的には、グローバルもそうなんですけど、教育もそうなんですけど、日本語というものを徹底的に教育すると。要するに、日本語がちゃんとできなかつたら、英語もだめよ、数学もだめよ、化学もだめよ、日本語を教育の中で大きく重点的にやっていただきたいなというふうに思います。

それと、何が起こるか分からない時代なんですね。1950年代に、私がまだ子どものころに、「君の名は」というラジオ放送が大流行したわけでございますが、そのとき「君の名は」となぜ命名されたかというのは、菊田一夫さんがいろいろシナリオを書いて、当時のGHQに届けたんですね。これでよろしいでしょうか。そのときに「君の名は」と言われた。「そうか、「君の名は」というのはいいな」ということで、「君の名は」という名前をつけて連載したんですね。

要するに、半世紀以上後の現代に、「君の名は。」というのはいくらか200億円ぐらい興行収入があるということでございますので、何が起こるか分からない。これが、何といいますか、将来にわたっていろんなことが出てくるのではないかと。トランプ現象もそうですけど。

ですから、やっぱりその基本になるのは日本語ということで、国語を重点的に教育していただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは、同友会代表幹事の久和委員、お願いします。

【久和委員】 富山経済同友会の代表幹事として参加させていただいております。

今、同友会では人口問題について勉強しておりますので、ご承知のように、自然減はやむを得ない面があるんですけども、社会移動による減少を何とか食い止められないかなということも今勉強しているんですけども、社会移動による減で特徴的なのは、二十歳前

後のところで若い人が県外へ出て行って戻ってこないというのが最大の、そこだけが大きな社会移動による減少なんですけれども、男性は最近、結構戻ってくるようになりましたけれども、若い女性の方がなかなか戻ってこない。戻ってくる率が6割ぐらいなんですけれども、結果的に若い女性がいなくなると、将来的な子どもの数もどうしても減っていくということにならざるを得ないと思ひまして、若い女性の人を富山県内でどうやって雇用したりしていくかということが課題ではないかなと思ひております。

特に最近、若い方は、昔なら結婚して専業主婦もそれなりにちゃんとした仕事だという意識があったように思ひますけれども、最近の若い方は、結婚しても引き続き勤められる、継続できるちゃんとした仕事もしたいというような希望があるようで、そういう意味で、若い女性が希望するような職場をもっと増やしていかなくゃいけないなど。

それと、逆に富山県は非常にものづくりが盛んな県ですので、もっと工業系の職場にも女性の方がどんどん進出していただけるように、ある意味、意識改革も必要ではないかなというふうに思ひております。

今回のこの委員会でも、女性の方がたくさんおられますので、ぜひ女性の方の目線でいろんな施策を考えるということが非常に重要ではないかなというふうに思ひております。

以上です。

【永原会長】 ありがとうございます。

今日はかなり女性の方もいらっしゃいますので、女性の方にもご発言をお願いしたいと思ひます。

まず、婦人会の岩田さん、お願いします。

【岩田委員】 私は昨日まで近畿ブロックの会議がありまして、そちらの方とちょっとお話ししたんですが、富山県だと言いましたら、富山県は黒四ダムがすばらしい。それと学力が高いという2つのお褒めの言葉をいただきました。

今、新幹線効果で観光地ももっともっと人が来ていただけるかなと思ひているんですけど、当初よりもちょっと落ちついたと言えればいいか、何か足が遠のいたのではないかなという感じがします。

やっぱり選ばれ続ける観光地づくりというのは大変難しいなと思ひますが、富山県は海とか山など本当に豊かな自然に恵まれています。これを活用して、何とか観光地を全国に発信したいなという思ひでおります。

それと、学力が高いとおっしゃっていただきましたが、これは長い年月にわたって教育

に携わってこられた先生方のご苦勞があつてこそと思ひ、やっぱり長くそれを評価されるということは大変なことだと本当にうれしく思ひます。その子どもたちが都会に出ていて、自分の生まれ育つたふるさとに帰らないという人が今まで多かつたわけですが、ぜひこの子どもたちが自分の育つたふるさとを思ひ起こして、ふるさとのために何か頑張つて仕事をしてくれればよいなど、そんなふうと思ひております。

安心分野では、私たちの団体では、今まで環境県富山ということで一生懸命環境問題に取り組んでまいりました。もちろんこれからも、環境の問題は幅広いので地道な活動を続けていきたいと思ひますが、先ほど部会長さんがおっしゃつたように、地域の保健、医療、福祉、これがぜひいい形になつてほしいなどと思ひております。

特に医療につきましては、県立中央病院も本当にすばらしい器具が入つたり、充実しているということですが、やっぱり医療は近いところで受けられるというのが一番の願ひなので、都に出ていなくても県内で対応できるという、一層充実していただければと思ひております。

それにはやはり、全ての面で人づくりなので、ぜひこれからもいろんな面で、人づくりにご尽力をいただければと思ひます。ここにたくさんの政策はありますが、それぞれ掲げても、できることもあればできないこともあるので、やはりそれぞれの立場でできることをやるというのが一番ではないかなと思ひております。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは次に、梅田さん、お願いします。

【梅田委員】 富山県商工会議所女性会連合会のほうからまいりました梅田です。

活力部会ということであれですけれども、この膨大な資料、このようにたくさん皆さんとともにこうやってなさつてくださつて、もう全てが網羅されていますので、次にというよりも、やはり私も、一番大事なものは、人づくりというのはやっぱり、どういふ世界のどこであろうと、やっぱり人の気持ちを思ひやる思ひやりの心というものを教えたいなど。そのためには、やっぱり小さなときからの子育て教育といひますか、そういう基本的なこと、日本古来の本当に正しい日本語の使ひ方、先ほど中井委員がおっしゃつたように、日本語もわからないのにグローバルに、グローバルにとおっしゃつても、それといふのは、日本語を正しく理解して全てのものがわかるような気がするんですね。それで、進学にとられるというよりも、まず基本教育、一番大事なのが教育のあり方だと私は思ひております。

ですから、先ほど男性と女性のあれで、働いて協力をというアンケートの中で、あのような結果って、あれはちょっと間違いじゃないかなと。富山の男性はそんなことないような気がするんですね。ずっと共稼ぎ社会が根強かったですから、そんなデータというのはどこから出てくるのか、どういうところから捉えられた数字なのか、私はちょっと疑問に思いました。

というのも、今の若い男性を見ていますと、すごく協力的なんです。だから、男だとか女だとかというよりも、人としてちゃんと尊敬して、まず一番そう理解できたのは、この前、知事と知事の奥さんの朝日新聞のあれを読ませていただいたときに、これこそ家庭だというふうに私自身すごく感動したので、富山県の気質としても、絶対に男尊女卑でもなければ、女性だけが被害意識を持つ必要は全くなくて、人として尊敬できる、お互いを尊敬できるということを小さいときから教えればいいんじゃないかなと、そんなふうに私は感じておりました。

ちょっと長くなりましたが、口幅ったいことを言ってすみませんでした。

【永原会長】 ありがとうございます。

では次に、惣万さん、いかがでしょうか。

【惣万委員】 自分の意見を言いますね。これ、ちょっと立派過ぎるから、現実を言います。

私は1993年、平成5年に、このゆびと一まれを立ち上げました。そのときは、お年寄りが縛られていたんですよ。それもあってしたんですけど、そのときはニーズがたくさんあったんだけど、サービス事業者が、例えば藤木校下でも2カ所しかなかった。今、十何カ所で、ものすごいデイサービスでも増えてきているんですね。

2001年に介護保険が始まって、これはすばらしい制度と思ってやってきたら、今2016年なんですけど、今度は、2001年ぐらいは若い人たちが介護福祉士になりたいということで、介護福祉士の学校に2倍も受験していたわけですよ。今はもう定員割れで、50%以下、40%。そして、全国では介護福祉士の学校が潰れてきています。

そしたら、例えば特養だって、50床あるところを40床しか開けない。そして、私たちの仲間も、職員が集まらないからといってやめていく。何かこういうのを見ていたら、10年後、20年後、30年後、すばらしい富山になるんじゃないか。それで話し合いを持っているわけなんですけど、この現実をもうちょっと具体的に、今度は部会で行くんだとは思いますが、何か抽象的過ぎて、何か良すぎるのかどうか分かりませんが、あんまり私

にはこれだという心に響くものはありません、正直言って。

ただ、私たちは、県は安心何やらって言われますけど、私たちは不安が募ってきているだけなんです。それなのに私、こんなところで意見を言うのがおかしいのかもしれない。安心だと言いながら。でも、現実を言いたいと思います。これからの老後、そして障害者の方たちを本当に安全に、富山で最期まで、富山で死んでもらう。そして、富山で死んでよかったという富山をつくり上げてほしいなと思います。

それと、私はどこかに信頼を回復する富山でありたいなと思っています。何か静かになりましたけど（笑）。

【永原会長】 惣万さん、信頼とは政務活動費のことですか。

【惣万委員】 県外へ行ったらかなり言われるんですよ。

【永原会長】 何を？

【惣万委員】 富山県人は真面目で信頼があって、その歴史をずっと何百年も続けてきて、そして今こんなことになったときに、何百年の歴史が本当に何か1カ月か2カ月で崩れていってしまって、例えばこのゆびと一まれに見学に議員さんが来られて、市長さんに、あんたたちどこに行くがけて聞かれて、富山に行ってきますと言ったら、そんなところ行くなと言った市長さんもおられるくらいに、何かこれからは本当に、富山は信頼を回復し、やっぱり富山は誇りの持てる——子どもたちだってかなり傷ついていると私は思っています。だから、誇りの持てる富山になってほしいなと思います。

何かあんまりみんなここに触れんがですけど、すみません。また出ていけって言われそうですから（笑）。

【永原会長】 次に、尾山さん、お願いします。

【尾山委員】 尾山でございます。よろしくお願いします。

私は、水産業を営みながら生活させていただいております。

この資料の中で、やっぱり県や知事さんたちが一生懸命こうして富山の魚をPRしてくださるおかげで、本当に日本一おいしい魚の県ということを知事さんがいろんなところで言っていて、本当にそういうふうになったことをとても感謝しております。

今、私が一番心配しておりますことは、後継者はいるんです。それから、働いてくれる若者もおります。ですけど、昔から見ると、今の働き手はサラリーマン漁業者と言って、昔はもう経営者と一体となって従業員は働いてくれましたけれども、今の漁業者は本当に時間が来れば、もう自分の時間は終わったんだからとすぐ帰っちゃうんですね。

だけどやっぱり、そういう自然に支配される職業なものですから、きちんと8時間、もう終わったから終わりですなんていう、そういう決まりがないんですね。休みたくなくても、荒れたり台風が来たりすると何日も沖のほうへ行けなかったり、また、今日土曜日だし休みだしと言ってでも、お天気がよければ仕事をしなきゃならないことだってあるんですね。

そういう中で、資料の中に、労働力人口の減少が見込まれる中、高齢者がこれまでに培ってきた知識や経験、技能などを生かして地域貢献しているという、そういうことを本当に、私は漁業をしてもう55、56年になりますけれども、昔働いてくれていた人、今、85、86になっていますけれども、今の若い人たちから見ると、働いてもらっている側としたらとてもありがたいです。やっぱり経験が豊かで、そしてまた、少しでも働くことによって生きがいを感じて、それこそ「本当にこの人、85、86かな？」と思うくらいに元気です。経験も豊かですから。

だから、私、これを見たときに、ああ、もっと漁業者だけじゃなくて、いろんな企業に若い人、経営者だけが育てるんじゃなくて、もっと今まで働いてくれていた経験豊かな人たちも事業者と一緒に若者を育てていけるようないろんな企業であってほしいなど。そうすれば、お年寄りも、病院へ行ったり老人ホームに入ったりしなくて、それこそ死ぬまで自宅で若者やいろんな方たちと楽しく生きていけるような社会ができるんじゃないかなと。ここを見せていただいたときにとてもそう思いました。

私は、70で定年になられても、やっぱり経験豊かですので、74、75まで働いてもらって、いろんなことを一緒に若い人たちに教えてあげるように組合のほうでも、そういうふうにして働いてもらってきました。年を重ねた人たちに依存するようで悪いかなと思いながらお願いしているんですけども、でも、とても喜んで働いてくれていますので、これは本当にありがたいことかなと思って、本当に今のピンピンコロリ、長くいろんなことに体、患わずに、そして病院や老人ホームに迷惑をかけないようにして亡くなっていけるような、そういう人生でありたいかなと私自身も思っておりますので、もしそういう企業があったときには、私はもっともっと元気な人があれば、みんなで経験豊かな人たちを大事にして、その人たちのいろんな知識を私たちは受け継いでいきたいかなと、ここの資料を見させていただいてそういうふうに思いました。

ありがとうございました。

【永原会長】 ありがとうございました。

それでは、自然保護協会の山下さん、お願いできますか。

【山下委員】 私は、今回の富山県の総合計画の内容は、わかりやすく中身の充実した温かみのある政策で、展望、希望を持てるすばらしい内容だと思いました。

私も100の政策を基に、住みよい安心・安全な富山県を目指し、皆様のお教えをいただきながら、ともに歩ませていただこうと感じています。

時間もないとのことですので、自然関係の諸策、事柄については、部会の方でお話をさせていただこうと思います。

【永原会長】 今日は、さきの経済・文化長期ビジョンの策定に携わられました青年部会を代表していらした藤井さん、お願いします。

【藤井委員】 ご指名いただき、ありがとうございます。

先ほどご紹介いただいたとおり、私、経済・文化長期ビジョン懇話会のほうで、30代、40代を中心とした青年部会の代表幹事を務めさせていただいておりました。そのご縁で今回の総合計画の委員のほうにもご指名いただいたということで、大変光栄に思っております。

30年後の富山県を考えるというのが長期ビジョンのテーマだったんですけれども、そのときに青年部会のメンバーからもたくさんの意見が出てきましたので、その前提で、この会議も意見を少しだけでも述べさせていただければと思っております。

今日は1つだけ、いろんな意見があった中で、多くのメンバーから、特に子育てをしている男性、女性、ともにですけれども、意見が多く出たのが、全天候型の文化スポーツ施設、ある程度大きな規模のアリーナみたいなものをぜひ富山の中につくってもらいたいという意見がありました。

それこそ、小さな子どもから大人、あとは高齢者まで、皆さん楽しめるような文化施設ということなんですけど、やはりスポーツ、特に屋内のスポーツで観戦できるものというのが、音楽イベントを含めて、いろんなイベントが開催できるような施設ができると非常にうれしいんじゃないかという意見が強く出ておりました。

今回配付されている長期ビジョンの冊子の59ページのほうにも入ってはいるんですけれども、ぜひ若者の定着も含めて、このスポーツ施設、アリーナの建設についても、この10年計画の中に盛り込んでいただければというふうに思っております。

また、私、本業のほうでは高齢者福祉の仕事もしておりますので、また安心部会のほうでいろいろ勉強させていただければと思っておりますので、引き続きよろしく願いいた

します。

【永原会長】 もう一方、J Cの碓井さん、お願いします。

【碓井委員】 私も本日初めて参加ということで、ある種、勉強の意味で皆さんのご意見を聞かせていただいております。

私からは、先ほども委員の皆さんからご意見があったかと思いますが、この100の政策に対していい、悪いというのは、正直、今の段階では判断しがたいかなというふうに思いますが、やはりどの政策も私自身大切だなと思うのは、まず現状をしっかりと把握することだなというふうに思っております。その中で、これまでやってきたものに対してのアンケートであるとか、さまざまなデータから今、新たな課題というものを抽出されたと思うんですけど、先ほど新聞のお話もございましたが、やっぱりいろんな視点から物事を判断して導いていくということが非常に大事なかなというふうに思っております。

今、1つのビッグデータ、リーサス等もございますので、そういったさまざまな数値的根拠、エビデンス等に基づいたものをしっかりと捉えた上で、今後の10年先と言われる富山県のそういった取り組み、政策というものをつくっていくことが必要かなというふうに思っております。

以上でございます。

【永原会長】 今日はほかにもたくさんの方々がご出席でございますので、もうしばらくお願いしたいと思います。

まず、森林組合の桃野さん、いかがでしょうか。

【桃野委員】 ありがとうございます。

私はいつも申し上げておるんですが、一番基本はやっぱり人口だというふうに思っております。

人口が基本ではありますけれども、将来の人口を予測する方法というのはいろいろあると思いますが、どう見たって人口が増えるということは非常に難しいだろうというふうに思っております。そうであれば、直接的に人口を増やすような施策というのは考えないほうがいいというふうに思っております。むしろ、卑近な言葉で言うと、昔から「うまいものは小勢」という言葉がありますが、残った数が少ないものでいかに幸せな生活を送れるかということに力を置いたほうがいいのではないかと。住んでおる者が元気で幸せな生活を送っておるなということが他県にわかるようないろんな施策、他県からうらやましがられるような施策というのが一番大事ではないかというふうに思っております。

以上です。

【永原会長】 医師会の馬瀬さん、いかがでしょうか。

【馬瀬委員】 富山県医師会の馬瀬でございます。

ここに書き込まれている内容については、医師会としては全く異議のない非常に明るいビジョンが書き込まれてあるというふうに思いますが、実際はこのようにうまくいくのかどうかということが一番肝心なので、これに向けて我々医師会もしっかり対応していかなくちゃいけないだろうと。

特に医療に関しましては、ここ数年、非常に厳しい状況が続いております。ご案内のように、高度先進医療がiPS細胞をはじめとして、もう医療の現場に入ってこようとしております。

それから、オプジーボに代表されるような非常に高い医薬品が市場に出てまいりました。これ1つとっても、医療費をかなり圧迫している現状です。

こういうことを踏まえると、10年後を見据える前に、今年、来年、医療、介護、福祉はどうなってしまうんだろうかという危機感を抱いております。しっかり地域の医療が崩壊しないように、私ども汗をかいてまいりたいと思っておりますので、県の方針としても、この辺のところをしっかりとサポートしていただければありがたいというふうに思っております。

以上です。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは、福祉協会の高田さん、いかがですか。

【高田委員】 富山県身体障害者福祉協会の高田です。

私が考えておるのは、皆さんもご存じのことだと思いますが、今年の4月1日に障害者差別解消法の法律が施行されました。それに合わせて、富山県としましては、障害のある人もない人も障害のある人の人権を尊重し、県民みんながともに生き生きと輝く富山県づくり条例という条例が全国で10番目にできましたことは非常にすばらしかったと、私らは喜んでおります。

今年こういう県条例とか差別解消法ができたんですから、これを機会に、やはり今までの政策をちょっと変えて、この条例とか障害者差別解消法に基づいた取り組みに入っていかなきゃいけないと考えております。

また、今までの流れをちょっと、生活状態を見ますと、障害者としては、比較的皆さん、

人に知られないように隠そう、隠そうとしておるのが現状であります。しかし、去る今年の8月に富山県の防災訓練が砺波広域圏でありまして、そのときに小矢部で障害者の防災訓練ということで、障害の人の救助と避難誘導の訓練をしました。このときに障害者の方が、その防災訓練にぜひ出させてくれと。私らがどこを助けてもらいたいかということを知っていただきたいから、ぜひそれをしたということ、私たちが防災訓練を計画いたしましたので、それで障害の種類に応じて、救助の仕方とか誘導の仕方とかいろいろありますから、それを防災訓練でいたしました。

その結果、後から聞きますと、障害者の方が、いや、よかった、これは1回で終わったらだめだ、これはもっと続けて皆さんにわかっていただきたいというような非常にありがたい言葉を聞きまして、これからも障害者の県条例とかができたこの機会に、やっぱりこういう障害者を隠すんじゃなしに、ここが悪いからこういうふうに助けていただきたい。あるいは、ホームで、よく目の見えない人が転落したということも聞いておりますが、これも、やはり皆さんが、誰か見ていると思いますが、声をかけないというのが世の中で、声をかけていいのか非常に思案されると思います。この防災訓練を通じて、こういう障害者の人にはこういうような声のかけ方をすればいいですよということを訓練で覚えておけば、日常そういうところで出会ったときに、あっ、あの人はここが悪いんだと勇気を持って声かけできる、そういう社会をつくっていかうというためには、やはり訓練をどんどん続けて、そして、その地域を盛り上げて、それを定着させていかなければいかんということからいきまして、この政策のほうをそういうところから取り組んでいただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【永原会長】 では、芸術文化協会の吉田さん、お願いいたします。

【吉田（泉）委員】 芸文協の吉田でございます。

まず、今年の7月30日から8月4日まで、「とやま世界こども舞台芸術祭」が海外23カ国・地域25団体、それに加えて、県外、県内の団体を合わせますと85団体で、およそ2,600人の参加があり、子どもたち、大人を入れて盛大に行われました。ここにいらっしゃる多くの方々にもご協賛いただき、ご支援いただきまして、まことにありがとうございます。

県当局、そしてマスコミ、一応芸文協が中心の民間団体という形で、世界に類を見ない形での第10回目の記念すべき国際フェスティバルでありました。

もっとも、子どもに特化したいたしましたのは「2000年とやま世界こども演劇祭」からでありまして、それから数えても5回目、全体では10回目ですが、16年もたっているわけです。

先ほど数土顧問も、人材の育成ということが石井知事さんの100の政策の中でも一番際立っているとおっしゃいましたが、そういう意味で、人材の育成、もっと言いますならば、子どもの育成ということが肝要であろうかと思えます。

そして、現行の総合計画とこの100の政策の関係からいきますと、富山の子どもたちが芸術文化活動に出会う、親しむ、参加する、交流する、そして発信する、これら全てが網羅されております。そして、これはやはり世界のグローバル化と関係あるんでしょうが、今非常に世界に出て活躍している、子どもではないんですが、子どもから大人になった者たちがおります。そういう意味では、スポーツの世界だけではなくて、世界に羽ばたく人材の育成ということも、これは未来部会の芸術分野の関係でやはり特筆していかなければいけないんだろうと思えます。

現にオペラ歌手、そして舞踊家で優秀な方々が、富山から出て行ってヨーロッパで活躍しているという状況がもう既にでき上がっております。

そういった意味を含めて、富山県は全国の中でも特異な非常にすばらしい県だと思えます。

以上です。

【永原会長】 防犯パトロール隊連絡協議会の村井さん、いかがでしょうか。

【村井委員】 今回初めてこういう機会に参加させていただきましたけれども、事前にいただいた資料等も拝見したりしていて、安心部会の話とすれば、大体基盤なり骨組みはできているんじゃないかなと思いつつ、ただ、高齢者の方あるいは子どもたち、そしてまた元気にこの富山で安心して暮らせるような、そういったもっと詰めた細かな対応が必要ではないかなと思えます。

また、部会の中でいろいろとご提言いただけると、また自分からも発信していきたいと思えますので、またよろしく願います。

【永原会長】 ありがとうございます。

それでは、もうお一方、時間的に大丈夫だと思うので、和田さん、いかがですか。

【和田委員】 和田でございます。皆さんもうお疲れになったと思いますが、もう少しお聞きいただきたいと思えます。

この資料を見させていただきまして、大変胸が躍動するようなところもありますし、「ん？ ここはどこまで頑張れるかな」と思いながら私は自宅で見ておりました。

ですけれども、今ここで100の項目がございますが、本当にこの100で終わらず、知事さん

にはどうかソフト面で、まだまだ幅広く県民に合わせたそういう項目をまたお願いしたいかと思っております。

それと、特に私は思いますが、私は未来部会でございますから、子どもの支援のところでございます。それで、子どもは宝、国の宝、県の宝、みんな宝なんです。だから、そういうことを思うと、本当に今の私たちがこの宝に何を託していけばいいのかということも基礎づくりの一つに当たるのかなと思っておりました。

それで、特に福祉部門とか教育部門には私は、知事さんが選挙のときに強く訴えておられました。そこにはすごく感動を覚えながら、富山県は福祉と教育部門が若干遅れているかのように私は思っておりました。そして、富山県内の15市町村がどうか一緒に連携して、そして行動計画を行っていくというような、その連携性もお願いしたいかと思っております。

それで、何といたしても、県民は安心・安全なまちづくりを望んでおります。どうか、富山県は安全と、何々が失敗したこともございますが、でも、住みよい富山県であるということをこれから私たちは訴えていかねばならないということ。最後に、どうかオープンでわかりやすい県政の状態をお知らせいただければ大変ありがたく思っております。

以上でございます。

【永原会長】 ありがとうございます。宮田委員、どうぞ。

【宮田委員】 貴重なお時間、ありがとうございます。富山国際学園の宮田と申します。

先ほど惣万さんのご発言がありましたので、黙っては帰れないと思ひまして、発言をさせていただきますと思っております。

私ども介護福祉士の養成教育あるいは保育士の養成教育を長年やっておりますが、惣万さんにも大変お力添えいただいております。大変感謝しておりますけれども、介護福祉士の養成校が潰れるということにつきましては、富山県内4校ございますが、絶対にそういうことはありませんし、そうしてはならんと思っております。

【惣万委員】 さきほどの話は全国のことです。

【宮田委員】 ただ、あしたの新聞の見出しがちょっと心配なものですから、ぜひこれは言っておかなきゃならん。県内の養成校、協会をつくって養成教育を20年やってまいりましたけれども……

【惣万委員】 でも、養成校の定員を減らしていますよね。

【宮田委員】 いえいえ、ただ、累積で約3,300名の介護福祉士を養成してきているんです。

それから、社会人で実務経験を生かして国家資格を取ろうという方たちの介護技術講習会も約2,800名やってきているわけです。ですから、これは潰してはならないと思っています。

ただし、おっしゃるとおり、今、介護や障害や保育の人材が足りないのは事実です。例の介護の技能労働者、外国人のですね、これを解禁するということにもなりましたので、いよいよ黒船が来るということなのですが、これに対してどう対応したらいいのか真剣に考えていかなきゃならんとは思っておりますが、そういった点では、富山型デイサービスを起こされた、いわゆる福祉、介護、医療の専門職としての富山型、富山らしきを出された惣万さんには、ぜひこの後も人材育成教育についてはご支援、ご協力いただきたいと思っておりますし、もう一方では、社会福祉協議会が続けてまいりましたケアネット活動、地域で地域住民が見守りをしていく、あるいは支え合いをしていくというこの活動、これも富山型の地域人材の育成という点では非常に注目をされておるわけです。

したがって、この今度の計画では、第3の富山型の人材育成をぜひ打ち出していけたらいいなというふうに思っております。

貴重な時間、ありがとうございました。

【永原会長】 ありがとうございます。ぜひ今後、安心部会でも活発な議論が行われますようにお願いしておきます。

4 閉会

【永原会長】 委員の皆様には、大変貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございます。

それでは最後に、石井知事から、閉会のご挨拶とあわせてコメントをお願いしたいと思います。

【石井知事】 きょうは第1回目ということですがけれども、本当に皆様それぞれ、大変ご見識のある方々ばかりですから、本当に貴重なご意見、それぞれありがとうございました。

お一人お一人のご発言をフォローするのはちょっと難しいですがけれども、最初に数土顧問がおっしゃった、やっぱり世界を見て、しっかり客観的なデータも集めて、その上で、例えば産業について言えば、もっともっと人手、生産年齢人口も減る時代ですから、ドイツのお話も出ましたが、もっともっと生産性を高めていく必要があるというのは全くごもっともだと思います。

それから、全般に皆様から、やっぱり人づくり、人の力が大事だということをご指摘いただいて、まさにそうだと思っております。

それから、できるだけ客観的な具体性のある数字、データをしっかり示して、ビッグデータをいかに生かすかという時代でもありますから、そして、できるだけバランスのとれた、また先を見通したい方向づけができるようにまた心がけてまいりたいと思います。

それから、個々のお話について全部触れるのは難しゅうございますが、例えば消費者行政についてあまり触れられていないというのをちょっとご心配される方もいましたが、これは106ページの一冊下をごらんいただくと、消費者行政については前回の計画と同じように入れてありまして、むしろその内容については、お話しのように特殊詐欺とかいろいろなものが増えておりますから、当然、中身については、5年前、10年前とまた違った角度というか、またより深く掘り下げた値を考えていかなきゃいかんと、こういうふうに思っております。

それから、例えば林業のような問題を取り上げて、できるだけ息の長い持続可能な実効性のある計画とすべきだという話がありまして、まさにそのとおりであります。

富山県の場合、例えば以前は採算が全くとれない、オーナーさんなんかの持論ですが、木を切れば切るほど赤字になるという状態が続いていましたので、そここのところの見通しが大変だったんですけれども、最近はA材、B材、C材、D材と山土場でちゃんと整理をして、A材やB材はそれなりの単価でしっかり売れると。B材のようなものはバイオマス発電で発電に使う。こういうような体系がかなりできてきましたので、以前はせいぜい木を切り出す量も5万立米ぐらいしか県内でできていなかったんですが、今、9.5万立米まで来まして、あと数年で何とか12万立米まで行くだらうと。そうすると、富山県の森のいい循環ができ上がるんじゃないかと実は思っております、もちろんそのためには、搬出だけじゃなくて利用のほうももっと促進しなきゃいけません、そういった点、また今度の計画の中で掘り下げていただくとありがたいなと思っております。

それから、県と市町村の連携も大切で、金森委員さんもおっしゃったとおりでありますから、ぜひこれは心を1つにしてやっていきたいなと。

それから、国語が大事だというお話もありまして、まさに母国語ができないと外国語も生半可になりますから、おっしゃるとおりだと思います。

それから、お話の中に、特に若い女性、20歳代、最近はおかげさまで、分析してみますと、男性のほうはここ1、2年は社会減と社会増、出入り、計算しますと戻ってくる人の

ほうが多くなってプラスになっている。しかし、残念ながら女性のほうは相変わらずマイナス500人ぐらいの数字になっていますので、これをいかに若い女性が富山に戻って、あるいはずっとこの富山で暮らして生きがいを持って働けるかと。そういう環境をいかにつくるかというのが大事ですので、これはまさに同友会でもやっていただけるようですが、産業界の皆さんとこれこそ連携をして、ぜひ取り組んでいきたいなと思います。

それから、医療についてのご発言も幾つかありましたが、中央病院も非常に全国的にも、そう言うては何ですけれども、日本海側ではトップクラスの病院になってきたと思いますし、首都圏なんかを入れても全国で20番目ぐらいに入るぐらいの病院になりつつありますが、同時に、やっぱり各地域ごとに身近な医療をしっかりと確保していくというのが大事ですから、この点はまた市町村あるいは医師会の皆さんともいろいろ議論を詰めながら、安全・安心な医療や地域社会になるように努力してまいりたいと思います。

それから、男女共同参画について、富山県はちょっと遅れているのかなというご懸念の声もありましたが、私は富山の男性は、心の中では随分そういうことはわかっているんだけど、あらわし方が下手な人が多いのかなという気もしております、こういった点は、またぜひ総合計画の策定のプロセスで、タウンミーティングとかいろんな機会がありますので、多くの県民の皆さんにまさに男女共同参画というのを、評論するだけじゃなくみんなが参加するということになるように、また微力でございますが、努力してまいりたいと思います。

それから、介護福祉士についてちょっと議論がありましたけれども、いずれにしても、宮田さんからもお話がありました、我々の手元に今ちょっと正確な数字がありませんが、介護にかかわる人を毎年500人か600人増やしていく計画になっていまして、多分それは実現可能じゃないかなと。

ただ、少し残念なのは、介護の道を選ぶ若い人があまり増えないというか、なんですね。それは1つはやっぱり、率直に言って、介護の仕事がきつい反面、処遇があまりよくないといったようなことがあるわけで、この辺は前回、惣万さんのところに塩崎大臣が視察に来ていただきまして、私もそのときにお口添えしましたけれども、今、厚生労働省もかなり本気で、富山型デイサービスも含めて、やっぱり介護にかかわる人たちの処遇をもう少し改善しなくちゃいけないという問題意識は持っていらして、少しずつではありますけど、改善も現に進んでいますから、こういった点は国の制度改正も求めていきますし、また県としてもいろんな場面でサポート、お支えもしていかななくちゃいけない。

また、ご高齢になっても、皆さん、非常に経験豊かで元気で夢のある方が多い。また、そういう方に、知識、経験を生かして、漁業をはじめとして地域貢献してもらうことがお年寄りの生きがいにもなるんだというお話がありました。

それもまさにそのとおりのと思いますが、今度の100の政策の中にも、人づくりのところで、エイジレス社会リーダーの育成とかシニアの方の力をもっと生かそうといったような考え方で柱を立てておまして、まさにそういうことで、また議論を深めていただければと思います。

また、全天候型のアリーナのようなものが要るんじゃないかと。これは実は経済・文化長期ビジョンでもそういう議論がありまして、特に若い人たちからはそういうニーズがあるのかなと私も感じております。

富山県内はスポーツ施設も、2000年国体のときに、県、市町村合わせて随分立派なものを当時としてはつくりまして、数としては結構あるんですけども、しかし、全天候型のアリーナということになると、ちょっとそこまでもう一つ行かないという感じもしますし、また文化ホールも、実は数とか席数から言うと、人口当たりで言うと全国で一番なんです。ただ、多分藤井委員さんがおっしゃっているような若い人が望む全天候型のアリーナというようなことから言うと、やっぱりそこまでではないものですので、これはどうしたものか。おかげで富山県の財政構造赤字もゼロにはできたんですけども、まだまだ国、地方全体、財政も厳しい中ですので、そういう中でどう工夫してそういった若い人たちのご要望というのを生かせるのか。これはまさに総合計画の中でも議論をしなくちゃいけませんし、我々としても真剣に考えてみたいなと思います。

それから、桃野さんでしたか、人口が減るのはもうしょうがないので、残った人がいかに元気に幸せに生きるかということが大事だという点。後段の分はもちろんそのとおりでと思うんですが、私、必ずしも人口を、どんどん増やすのは無理でしょうけど、減らすのを抑止するのは実は諦めていませんで、1つには、富山県への移住が最近増えているんですね。8、9年前までは随分努力したんですが、移住してくる人は年に200人ぐらいでした。これが一昨年411人になって、昨年は462人になりました。この462人のうち、20歳代、30歳代の方が実は72%なんです。中にはお子さん連れでいらっしゃる人が増えてきている。

ですから、さっき言ったように、20歳代前半で分析すると、男性もこっちに入ってくるほうが多くなってくる。女性がそこらあたりがないんですが、そこはいろいろ考えないといけない。

ということなので、今、実は富山県は、有効求人倍率が1.6という状態がずっと続いているわけですね。全国トップクラスで続いているわけですから、働きやすくて住みやすい、教育水準も、何か低いというお話もありましたが、客観的には高いんじゃないかと思いますが、そういうところもしっかりアピールしてやっていきたい。

あと、出生率は1.34まで下がったんですけれども、いろんな政策を積み重ねて、昨年から第3子の保育料無料化ということにも踏み切りましたが、今1.51まで回復して、1.5を超したのはこれで21年ぶりなんです。早く1.9、これが県民の皆さんの希望出生率ですから、そこを早く到達できるようにして、さらに、できれば人口置換水準の2.07を目指したいと思うんですが、まずは1.9ぐらいを何とか、まだまだハードルが高いですけれども、これは頑張っていきたいと思いますし、そのためにどうするかということは、またこの総合計画策定のプロセスでもいろんなご意見を賜ればと思っております。

このほかにもいろいろなご意見がございましたけれども、時間も大分過ぎましたので、きょういただいたご意見をしっかり受けとめて、我々事務局としてもまた次回までにいろんなことを整理したいと思っておりますし、また1月以降、各部会も始まりますので、今日のご意見からさらにいろいろと突き詰めたご見識、ご提言をいただければ本当にありがたいと思っております。

今日は本当にありがとうございました。

【永原会長】 石井知事、どうもありがとうございました。

それでは、今日はこのあたりで会議を閉じたいと存じます。

長時間にわたり、議事の進行にご協力いただき、ありがとうございました。

なお、今お話にもありましたけれども、次回は、今後、各部会での所掌事務に関する議論が始まります。この議論を踏まえまして、来年春ごろに第2回目の審議会を開催することになるかと存じますので、よろしく申し上げます。